

小学校高学年

～木曾三川の治水の歴史～
発問計画

1 時限目用

発問計画・学習教材

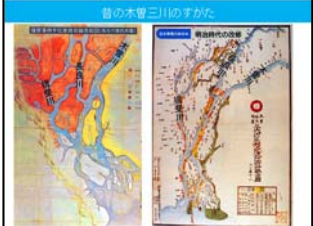
1 時限目 木曽三川の治水の歴史

本時のねらい（目標）

木曽三川や長良川上流部の古地図などを観察して、先人が水害を減らすために川の形を変えてきたことを認識するとともに、治水事業は地域間の利害を超えた調整が必要であることや国がそのような調整を行いながら今日も事業を進めていることを理解する。

※発問計画の「 」は、予想される児童の発言（児童に伝えたい発言）を示す。

黄色着色部は、国土交通省職員による補足説明音声資料があります。

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
導入 (5分)	1. かつての木曽三川の古地図を示し、関心度をみる 発問： この図は、江戸時代の木曽三川の様子です。今とどのように違いますか？ ・川がくねくねしてる ・川の形が今とは全然ちがう ・あみだくじのように繋がってるなど ※この時間は、どのようにして川の形が変わっていったのかを学習しましょう。	・自由に意見を発言させ、長良川への関心度を確認する。	○資料1 古地図：薩摩藩御手伝普請目論見絵図・明治時代の改修 
展開 (30分)	2. 木曽三川（主に下流部）の治水の歴史 発問： なぜ川のか変わったのでしょうか？ ・水害で川のか変わった ・宝暦治水で薩摩藩が工事をした ・デ・レーケが工事をしたなど 解説 ※かつての木曽三川は今の姿と違って網状に流れ、雨が降るたびに水が溢れ出し、川的位置も定まらずに、人々は多くの洪水に苦しめられてきました。それを解消しようと、豊臣秀吉や徳川幕府は、堤防を整備したり、人々は輪中堤を整備してきましたが、被害が減ることはありませんでした。（資料2）	・自由に知っていることを発言させ、治水の歴史に関する知識・認識を確認する。	○資料2 江戸時代の水害状況絵図 

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説				
	発問： 資料3は、人々が当時の国に出したお願いの文書です。人々は特にどんなことが苦しかったのか、この文書から分かることを挙げてください。 ・作物がとれない ・土地をすてて出て行ってしまふなど ※水害や毎年のように凶作となることに苦しんだ農民は、江戸幕府（江戸時代での「国の機関」）に熱心に訴え（資料3）、江戸幕府は薩摩藩（今の鹿児島県）に命じて、宝暦治水を行いました。宝暦治水は、莫大なお金や材料（資料4）と多くの犠牲者（幕府のひどい仕打ちに対する抗議としての自刃や病気もありました）を出し、とても難しい工事となりましたが、これが三川分流の第一歩となりました。（資料5） ※宝暦治水を行っても、水害がなくなることとはなく、根本的な工事としては、明治時代になりようやくデ・レーケの指導のもと、三川下流部で三川分流工事（明治改修）が行われました。（資料6（資料1の再掲））		○資料3 工事の陳情 工事の陳情（国へのお願い） 洪水に苦しんでいた人々は、木曾三川の工事のお願いを出しました。 美濃の国の村々は、毎年、水による被害がらえて、今では良い土地では作物を育てることができなくなっています。良い土地の村々でも毎年、水の被害を受け、年によっては作物がまったくとれなかったり、半分しかとれなかったりしています。そのため農家を続けていくのがむずかしくなっています。そのため、土地をすてて、出ていってしまうものもいます。今回、村々が集まり、水の被害がなくなり、水の流れも良くなり、大垣から三重県までの村がもとのすがたに立ち帰り、よい土地となりますよう、工事のお願いを申し上げます。 ○資料4 宝暦治水工事で使ったお金や材料 宝暦治水 宝暦治水の工事はばく大なお金や材料が必要な大工事でした。 <table border="1"> <tr> <td>金・銀 金貨 12,274両 銀貨 6816両</td> <td>石・土 石 172,524石 土 1,320,000石</td> <td>薪・炭 薪 1,320,000束 炭 420,000束</td> <td>その他 その他 1,320,000両 その他 420,000両</td> </tr> </table> 40日間にわたる工事 合計で約3000人もの犠牲者が出た。 ○資料5 宝暦治水の工事（締切）箇所と当時の略図 宝暦治水 宝暦治水は宝暦4年～5年（1754年～1755年）、約1年半の時間をかけて行われました。  ○資料6 明治時代の改修（再掲） 明治時代の改修 治水事業の歩み 明治時代の改修 	金・銀 金貨 12,274両 銀貨 6816両	石・土 石 172,524石 土 1,320,000石	薪・炭 薪 1,320,000束 炭 420,000束	その他 その他 1,320,000両 その他 420,000両
金・銀 金貨 12,274両 銀貨 6816両	石・土 石 172,524石 土 1,320,000石	薪・炭 薪 1,320,000束 炭 420,000束	その他 その他 1,320,000両 その他 420,000両				

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
	3. 長良川上流部の治水の歴史 発問： この写真（資料7）では、古川、古々川などの川があります。今はどうなっているでしょう？ ・ 岐阜メモリアルセンターがある ・ 岐阜北高校がある など ※参考（答えあわせ）として、資料8で認識を共有する。 解説 ※長良川・古川・古々川の3つの川が流れる地域の周辺も、江戸時代から幕府に改修を陳情してきましたが、長い間実現しませんでした。 江戸時代に、古々川の締め切りを試みましたが、岐阜市の南側の藩主により中断させられました。 その後、どの河川を締め切るかは明治時代に入ってもなかなか決められませんでした。それは、この三川の北側の地域と、南側の地域で対立していたことも要因になっています。 発問： なぜ、どの川を締め切るかで、長良川の北側と南側で対立したのでしょうか？ ・ 自分の地域に近い方の河川を残したら、近い方の河川に締め切った河川分の洪水が流れ込んで、水害がひどくなる など ※洪水が残った川に流れ込んで、被害がもっと大きくなる可能性があることの他に、埋め立てたところは土地が増えるので活用できる、あるいは遊水池として洪水をためておくことができるので、どちらの地域も譲ることができませんでした。 ※しかし、対立しては解決しないということで、大正時代に、『両方の地域の対立を超えて、解決しよう』ということで「長良川治水会」が結成され、様々な要望の調整を行いました。また、川の流れをよくするため、なるべくまっすぐに流れるよう、井川（今の長良川）を残して、古川・古々川を締め切ることにしました。	・ 川の改修は、一方が良くなると他の地域が悪化することがある。 ・ 国は地域（市町や県）をまたいだ事業について、調整を行い、全体がよくなるような方法を考えて進めている。	○資料7 改修前の長良川・古川・古々川  ○資料8 川の跡地に建てられた公共施設 

流れ	発問計画	指導上のポイント	教材解説
	※このように、「様々な意見をまとめて、工事をすすめていく」のが公共事業での国の役割にもなっています。		
終末 (10分)	4. 学習内容の振り返り、授業のまとめ 授業のまとめ（例）： ・ 川を変える工事は大変な工事 で、お金も時間もかかる。 ・ 国は、川の工事を行うときにも 地域どうしが対立しないように 調整しながら、全体がよくなる 計画を立てている。	・ 学習でわかったこと、考えたことをワークシートに記入させる。	○ワークシート 